様式1-3（統一栽培暦様式）

もっと安心農産物　こまつな栽培暦（秋冬どり栽培）

（令和7年産）

ＪＡいちかわ船橋地区もっと安心農産物生産グループ

1.土作り

完熟堆肥を施し土作りする。（2,000kg／１０ａ）堆肥の補助資材として、アゾミンを使用する。

2.施　肥　　土壌診断にもとずく施肥量を遵守します。（化学肥料使用量窒素成分：秋8.5kg/10ａ,冬1.kg/10a）

	肥料名	保証成分（%）				施肥量（10aあたり）	
		N	P	K		秋どり	冬どり
基　肥	①船橋みらい007	10	10	7	（有機態窒素3.3%）	149kg/10a以下	126kg/10a以下
	②スーパーマイルド086	10	8	6	（有機態窒素6.1%）	255kg/10a以下	217kg/10a以下
	③マイルド有機030	10	13	10	（有機態窒素5.3%）	212kg/10a以下	180kg/10a以下
	④有機アグレット673	6	7	3	（有機態窒素6.0%）	100kg/10a	100kg/10a
	苦土重焼燐	0	35	0		60kg/10a	60kg/10a
	苦土セルカ2号			（カキガラ100%の有機石灰）		60kg/10a	60kg/10a

※基肥は、①または、②を選択する。

※有機アグレット673は、船橋みらい007・スーパーマイルド086で窒素量が不足する場合施用する。

3.防 除　使用薬剤は下記の化学合成農薬９成分使用回数とする。

（スピノエース顆粒水和剤・ＢＴ剤は、化学合成農薬に含まれません。薬剤名後の（）は化学合成農薬の成分数を示す。）

月		管理作業	病害虫の発生	使用薬剤	希釈倍数処理量	使用時期	対象病害虫	備考
7	上	施肥	コナガ	アルバリン粒剤（1）	6kg/10a	播種時土壌混和	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	＜害虫対策＞ トンネルやハウス施設を防虫ネット（0.8～1.0mm）で覆いｺﾅｶﾞ・ｱﾌﾞﾗﾑｼ類の侵入を防ぐ。 真夏の太陽熱消毒で、マメハモグリバエ・キスジノミハムシの幼虫を駆除する。 ＜病害対策＞ 白さび病は、平均気温１５℃前後で降雨が多いと発生しやすい。 常発圃場や低湿地は発生しやすいので作付けを避ける。 耐病性のある品種を選択する。 （いなせ菜 こいしい菜） 萎黄病には耐病性品種を導入する。発生圃場からの土壌の移動に注意する。 作物残渣はきれいに処理して病害虫の発生源をなくす。
	中			ユニフォーム粒剤（2）	9kg/10a	播種前全面土壌混和	白さび病	
	下			スピノエース顆粒水和剤（0）	2,500倍	収穫14日前2回以内	ｱｵﾑｼ　ｺﾅｶﾞ ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	
8	上			モスピラン顆粒水溶剤（1）	4,000倍	収穫7日前1回以内	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	
	中			プレバソンフロアブル5（1）	2,000倍	収穫前日2回以内	ｺﾅｶﾞ	
	下			コテツフロアブル（1）	2,000倍	収穫3日1回以内	ｺﾅｶﾞ　ｱｵﾑｼ	
9	上			アルバリン顆粒水和剤（1）	3,000倍	収穫3日2回以内	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	
	中	播種		ランマンフロアブル（1）	2,000倍	収穫3日3回以内	白さび病	
	下			アファーム乳剤（1）	2,000倍	収穫3日2回以内	ｺﾅｶﾞ	
10	上			アグロスリン乳剤（1）	2,000倍	収穫前日2回以内	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	
	中			アニキ乳剤（1）	1,000倍	収穫前日3回以内	ｺﾅｶﾞ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ	
	下	収穫	ハモグリバエ類アブラムシ類	エスマルクDF（0）	1,000倍	収穫前日	ｺﾅｶﾞ　ｱｵﾑｼ ﾖﾄｳﾑｼ	
11	上			プレオフロアブル（1）	1,000倍	収穫前日2回以内	コナガ	
	中			アクセルフロアブル（1）	1,000倍	収穫前日3回以内	ｺﾅｶﾞ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ	
	下			プロフレアｓｃ（1）	2,000~4,000倍	収穫前日3回以内	ｺﾅｶﾞ ｱｵﾑｼ ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ	
12	上							
	中							
	下							
1								
2								

☆みんなで守ろう生産基準☆